

喜界町



# 議会だより

164号

平成28年7月25日発行

発行／喜界町議会 編集／議会広報編集委員会

〒891-6292 鹿児島県大島郡喜界町湾1746番地

TEL:0997(65)1115・FAX兼用



## 第59回 奄美群島市町村議会議員大会



第59回 奄美群島市町村議会議員大会

主  
な  
内  
容

常任委員会報告 ..... 2

一般質問に7名が登壇 ..... 4

読者の声・編集後記 ..... 12

# 平成28年度 一般会計補正予算は 4,268万円を追加して 58億5,361万円に

## 常任委員会報告

平成二十八年第二回定例会は、六月六日から十三日までの八日間開催されました。初日は、一般質問（議員七名登壇）、平成二十七年喜界町一般会計補正予算外十二件（専決処分承認し、繰越明許費繰越計算書（一般会計、簡易水道事業特別会計）二件の報告がありました。喜界町防災施設関連契約一件を可決し、平成二十八年度

一般会計補正予算外五件については、各常任委員会に付託しました。最終本会議には、平成二十八年喜界町一般会計補正予算外五件を原案どおり可決しました。追加提案された、工事請負契約外二件を可決し、教育委員会委員の任命については全会致で同意しました。

### 総務文教委員会



総務文教常任委員長  
外内 千里

地方債の補正は、補正予算の不足財源にあてるため臨時財政対策債の一億七千五百万円を、一億八千三百三十四万七千円に増額。

歳入の増額で、県支出金の総務費県補助金は、公共施設再生可能エネルギー導入事業補助金で三千万円、雑入の一般コミュニティ助成事業で四百九十九万円、町債で臨時財政対策債八百三十四万七千円。

減額は雑入で、四月二十八日予定の土地改良区総代選挙が無投票であった

ため選挙負担金の五十六万一千円を減額。

### 歳出の主な増額は

総務費一般管理費で公共施設再生可能エネルギー導入事業費三千四百万円は、災害発生時の避難所である役場コミュニティ施設に太陽光による電力を確保するため太陽光パネルを設置する。企画費の三百六十六万三千円の増額は六月より地域おこし協力隊増員の報酬と住居費、車リース等。電算管理費九十万八千円増額は役場全体の公会計サポート用の端末機、パソコン購入費。諸費の一般コミュニティ事業補助金は川嶺集落と神宮集落分で四百九十九万円。

### 主な質疑

(一) 太陽光パネルの設置場所、発電



審査する総務文教常任委員会

容量についての質疑に、設置場所は庁舎かコミュニティセンターの屋上を検討している。発電容量は10kwで蓄電が16kw可能である。非常時以外は庁舎内で消費し、売電はしない。

(二) 地域おこし協力隊の活動について、活用について、財源についての質疑に、給与は町からであるが基本的に活動は自由である、コンピューター、会計、イラストとそれぞれ特技があり、町や町民の要望に応える活動をおこなっている。財源は国の特別交付税で対応される。

## 産業福祉委員会



産業福祉常任委員長  
安田 英次郎

### ■一般会計

#### 【歳出について】

民生費の社会福祉総務費八十万円の減額は介護保険特別会計操出金で、介

護保険特別会計で購入予定の軽自動車減額したためです。保健福祉総務費四十二万二千円の増額は、五年リースの車借上料です。

農林水産業費の農業振興費二十万円の増額は、農林業振興資金利子補給補助金です。

### ■特別会計

喜界町国民健康保険特別会計補正予算(第一号)について

歳入歳出予算の総額にそれぞれ十六万八千円を追加して総額十三億五千六百一十二万五千円とするものです。総務費の一般管理費十六万八千円の増額は、三十年度から国民健康保険が県の運営になるためにシステムを改修するものです。

喜界町介護保険特別会計補正予算(第一号)について

歳入歳出予算の総額にそれぞれ八十万円を減額して総額九億四千七百七十三万三千円とするものです。

八十万円の減額は、認定調査費等費の軽自動車購入費を減額するものです。

喜界町老人福祉施設事業特別会計補正予算について

歳入歳出予算の総額にそれぞれ百九十三万四千円を追加して総額三億六千九百二十五万五千円とするものです。

総務費の一般管理費百九十三万四千円の増額は、人事異動により職員が一人減になったことにより事務備人料九十九万円増額、大型バス運転免許保有者が一人減になったことにより送迎を委託するため委託料九十四万四千円増額です。

### ■条例

喜界町放課後等デイサービス事業施設設置及び管理に関する条例の制定について

現在障害者通所支援のうち、就学前までは、児童発達支援事業所(てくてく教室)のサービスが受けられるが、就学してからはサービスが受けられないため、この条例を設置することにより、高校生までサービスをうけることができる。

喜界町分収造林条例を廃止する条例について

この条例は、昭和三十五年に制定され個人所有地に町が松を植栽して販売し、収入を得るための条例でしたが実際には、運用されていなくこれからも実施されないで廃止するものです。



審査する産業福祉常任委員会

町政のここが聞きたい

# いっぱん質問

第2回定例会で7名の議員が町政全般にわたり一般質問を行いました。質問と答弁を要約して紹介いたします。



質問する  
外内 千里 議員

**質問**  
障害者対策について

「喜界高校に特別支援学校の高等部の支援分教室設置又は、特別支援学級の設置を求める」請願がなされたおり、大島養護学校と希望の星学園を視察しましたが、視察を通して思ったことは、養護学校の高等部を卒業した子ども達の進路はどの様になるのか、保護者の子供たちの育成を思うと心配です。

本町でも障害の状態により一般事業所や「はまゆり学園」が受け入れているが、軽い障害の方が就労できる施設が本町でも必要ではないか。

**質問** 障害のある方が世話人の支援を受けながら地域で暮らすグループホームの整備を今後検討できないのか。

**答弁** 町長

グループホーム（共同生活援助）は施設入所や精神科病院の入院から地域生活へ移行を希望する人が、日常生活上の支援を受けながら地域での生活を営む共同居住をするための施設で、本町は第四次喜界町障害福祉計画に施設入所支援サービスと合わせて推進を明記しており、現在島内外の関係事務所や関係事業所と連携し、障害者等の生活実態の把握に努めています。

**質問** 障害のある方の雇用の場の創設、拡大は検討できないのか。

**答弁** 町長

障害者の雇用の促進等に関する法律の一部改正が本年四月一日施行され、障害者が職場で働くに当たっての支障の改善や苦情処理・紛争解決が義務づけられるなど、障害者が働きやすい職場環境が整いつつあります。本町の状況は、奄美市の社会福祉法人「あまみ障害者就業・生活支援セン

ター」との連携で島内事業所への就業や障害者職業能力開発校等への入学などの支援を行っています。同法人への登録者数は現在十九名で内六名が就職しており、役場、ＡＣＯＰ、徳洲会でも雇用されており、積極的な取り組みにより理解を得られる事業所が増えていきます。今後も個々の状況に応じた支援を継続し雇用の場の拡大に努めます。

**質問**  
医師修学資金貸付金、奨学金貸付金について

昨年六月議会で改正された「喜界町医師修学資金貸付条例の一部改正条例」はこれまでの対象者を医師から医療関係十二職種にひろげ一学年においては国立大学並みの入学金と授業料。図書購入費は年二十万円、生活費は月八万五千円。二学年から六学年までは授業料、図書購入費、生活費が貸し与えられ、規定の島内勤務で貸付金の返納が免除となるものです。生活が苦しく子供たちの希望する進路に

進めることができない親にとって、大変魅力のある制度です。

**質問** 医師修学貸与条例改正に伴い申請者が増えたと思うが、審査方法と今年度の実績を伺う。

**答弁** 町長

改正のねらいは地元に必要な人材は可能な限り出身者で補い、仕事を作ることによって人口減少対策をするのが第一義的であり、主なターゲットは医師、看護師、薬剤師です。審査方法は、申請書類に基づき、選考基準及び資格優先度との整合性について、厳正かつ慎重に審査し決定しています。今回申請者五名、決定者一名で就学する職種は理学療法士です。

**質問** 貸付金が昨年百八十万から今年度二百四十万と若干の増額であり少ないと思うが、ふるさと寄付金などを活用し増額を検討すべきではないか。

【答弁】 町長

ターゲットとする職種の申し込み者数が多くなった場合は、検討します。

【質問】 奨学金には色々な制度があると思うが、担当課は把握し学校と連携し保護者への情報提供はなされているか。

【答弁】 教育長

現在奨学金の種類は、喜界町奨学資金、鹿児島県育英財団奨学金、日本学生支援機構奨学金、一般財団法人喜界育英会奨学資金等があり、鹿児島県の奨学資金については、中学校二年、三年の進路学習でも詳しい資料を基に学習しております。今後は、中学校、高等学校及び教育委員会の間の資料、情報交換を密にして喜界島の子どもの学びを支援していきたい。

### 質問 集落活性化コンクレン

喜界町の過去四十年間の人口変動を見てみますと、昭和五十二年の一万一千五百二十

四名から本年は七千三百七十五名、約四千人の人口が少なくなっています。四十年前と比較し町人口が六十四%に減少に対し、中心部の減少率は八十三%にとどまっております。いかに周辺部の集落人口の減少率が高いか分かります。そこで今後の集落活性化対策について伺う。

【質問】 町及び集落の今後の人口変動についての見解を尋ねる。

【答弁】 町長

昨年十二月に地方創生総合戦略の基となる喜界島人口ビジョンを策定しました。それによると、二〇二〇年に七千三百二十一名、二〇三〇年は六千五百六名二〇四〇年に五千七百七十五名、と減少予想になっています。旧小学校区では二〇一四年と二〇四〇年を比較すると小野津、志戸桶校区が三割減、湾、早町校区が四割減、滝川、阿伝校区が五割減、荒木、坂嶺校区が五割減、上嘉鉄校区が六割減

の推計見込となっております。人口減少は全国的な社会問題ですが、地方創生総合戦略の「しごと創出」事業や「人を呼び込む」イベント開催等で活力ある地域づくりを推進します。

【質問】 役場職員を地域担当員として配置しているが、配置による効果について見解を尋ねる。

【答弁】 町長

行政と地域住民とが地域に課題解決に協働で取り組み、地域の活性化につなげることを目的に、平成二十五年から集落担当職員を配置致しました。担当職員は集落との連絡調整、相談、行政情報の提供、集落活動の推進に取り組んでいます。特に集落活性化推進助成事業では区長や地域の方々と一緒に考え、取り組んでいます。これまでの主な内容は、空き家を活用したおもてなしハウスの設置、八月踊り、スポーツ大会、防災訓練、



花良治おもてなしハウス

寄合サロンなど集落活性化に取り組んでいます。また集落からの要望事項についても担当職員が関係課調整し一定の役割を果たしています。

【質問】 高齢化率をみると今後周辺部の集落人口が急激に減少すると思われるが、今後の対策について尋ねる。

【答弁】 町長

今年度地方創生事業で生涯

学習課所管の「まちづくりリーダー塾」の開設や地域づくりに必要な資格技能取得を支援する事業など実施します。これらの事業を通し、人口減少による集落が抱える問題をともに考え、対策を講じます。



質問する 谷本 泰男 議員

### 質問 町営住宅コンクレン

現在、十数年前から湾集落の宮戸団地を中心に建て替え工事を計画的に進行中です。町営住宅の集落別入居戸数を見てみますと、湾集落百一戸、赤連集落五十二戸、中里集落三十戸。三集落で百八十三戸です。全体の六十四・七%に当たります。湾集落、赤連集落、中里集落へ人口が集中してよいものでしょうか。喜界島の総人口は七千四百二十七

集落別人口の状況について（住宅のある集落のみ掲載）

集 落	世 帯	人 口	住宅戸数	入居戸数	空き家 (耐用年数経過)
湾	655	1,378	117	101	16
赤連	685	1,247	60	52	8
中里	336	735	30	30	0
荒木	256	494	24	22	2
手久津久	75	134	9	6	3
上嘉鉄	210	401	8	8	0
城久	48	94	2	2	0
滝川	21	30	4	2	2
島中	34	53	1	1	0
中熊	32	61	12	10	2
小野津	214	393	13	13	0
志戸桶	243	482	16	16	0
佐手久	105	198	8	5	3
塩道	99	194	7	5	2
早町	62	113	12	7	5
阿伝	42	79	4	2	2
花良治	62	98	1	1	0

名、そのうち湾集落千三百七十八名、赤連集落千二百四十七名、中里集落七百三十五名、この三集落で三千三百六十名になります。総人口の四十五・二％に当たります。そこで三

点伺います。

【質問】現在の町営住宅の建て替えの状況について

【答弁】建設課長

湾宮戸団地を平成二十三年度から着手して平成二十七年

度末で四棟二十戸が完成しています。

【質問】今後の町営住宅の建て替えの見通しについて

【答弁】建設課長

湾宮戸団地の残り八棟四十戸を順次建て替えます。平成三十六年度末に十二棟六十戸で建て替えが完了します。平成三十七年度以降については、耐用年数が経過し、危険性が高い団地から建て替えを

実施したいします。

【質問】町営住宅の設置状況と現在の喜界島の集落別人口の状況について

【答弁】建設課長

建設課では、町営住宅と単独住宅（旧教員住宅）併せて四十九団地三百二十八戸を管理しています。現在、四十五戸については、政策空き家として入居を停止していますので、二百八十三戸が入居中です。



質問する  
里村 忠弘 議員

【質問】**地下ダム二基目の調査費及び現状について**

新聞報道であった喜界島地下ダム二基目調査費が計上されたことに伴い、三点について尋ねる。

【質問】調査となる場所はどこか

【答弁】町長

国が平成二十八年度より次期国営事業を見据えた地区調査に着手し、島内全域を対象とした水源計画の検討に入つたと聞いています。中里集落と荒木集落間において、六月からボーリング調査を開始する旨の協議を受けていることから、同地区が重点的な調査箇所とされているようです。

【答弁】町長

第一地下ダムの配水管理は土地改良区が行っておりますが、地区ごとの散水については、一部規定量を超えて散水されることもあるため、パトロールを強化するなど適正量散水されるよう管理強化をお願いしたい。

【質問】**未来へ安心安全の防災対策について**

【質問】集落ごとの防災ハザードマップの整備は進められているか

【答弁】総務課長

現在、鹿児島県の津波浸水予測データを活用して、集落自主防災組織の災害凶上訓練や研修会で、避難場所や避難所、避難経路、要配慮者等の確認を行いながらの集落ハザードマップ作成準備を進めているところとす。

【質問】現在の散水量は守られていると思うか

作成にあたっては、これまで大津波を想定していたが、今回の熊本地震を受けて大地震による被害も想定しなければ



佐手久集落での災害図上訓練

ばいけないと考えています。避難所の耐震や避難経路の再確認を行い、集落単位又は旧小学校区単位の防災ハザードマップの整備を進めて参ります。そのためには自主防災組織の災害図上訓練等も不可欠です。本年度は五集落で実施を予定しています。

**質問** 地震や大津波の治安対策として、高台への避難道路

の新設は考えられないか。

**答弁** 総務課長

海抜の低い集落が多い本町において、避難道路は重要であります。防災訓練等で避難道路を含む防災施設の整備が必要であれば検討したい。



質問する  
生駒 弘 議員

**質問** 防災対策について

**質問** 指定避難所の整備・運営について

四月十四日最大震度七の強い揺れを二度も観測した熊本地震が発生、亡くなられた方が四十九名、行方不明者一名被災した建物は約八万七千棟にも上り、十七日には約十八万人が避難所に殺到し、避難所は被災者であふれかえり、入れない人は廊下や車の中で不安な夜を過ごす結果となり

ました。喜界町地域防災計画で指定している避難所は、避難所として適しているのか、また整備が必要な箇所はないか点検すべきではないか。また災害時に避難所の運営はどうするのか伺う。

**答弁** 町長

本町の指定避難所は三十カ所です。熊本地震では、最大八百五十五箇所の避難所に十八万三千八百八十二名が避難されました。本町で大規模な災害が発生した場合、指定避難所も被災することが予想されることから避難所が足りなくなる事が想定され、また、中長期避難所がなかったことから、今年度、防災関連施設（炊き出し施設）を建設いたします。施設には、自家発電、洋式トイレ、シャワー室などを設置し約百名の避難者を受け入れることが可能です。そのうち約二十名は要援護者対応となっております。避難所の運営については、喜界町避難所運営管理マニュアルで運用することになっているが、プ

イバシー・情報伝達・ストレス対策等について再度検討いたします。また、指定避難所の浄化槽設置など必要な改修も進めて参ります。

**質問** 災害時要配慮者の避難・救済支援につて

**答弁** 町長

要配慮者の避難に関して、集落の自主防災組織の協力が必要です。災害図上訓練や研修を行い、日頃から要配慮者に対する共通認識をもつ必要があります。要配慮者の福祉避難所としては、今年度建設の防災関連施設や老人福祉施設等を想定しています。

**質問** 食料の備蓄について

**答弁** 町長

鹿児島県が作成した奄美群島太平洋沖地震の被害想定では、本町は家屋の倒壊等により、最大三千五百名が避難する予測となっております。現在、役場庁舎に飲料水を三千本と非常食を千食程度と備蓄して

います。今年度建設の防災関連施設では一日千食を提供し、三日分の三千食の食材を備蓄する計画です。各家庭や事業所での備蓄も大切ですので広報啓発に努めます。

**質問** 災害廃棄物の処理について

**答弁** 町長

本町の地域防災計画では、



防災関連施設完成予想図

仮置場にて保管して適正に処理するとしています。仮置場については、町有地を予定場所としていますが、大規模災害により仮置場が不足する場合も想定され、民間の候補地も検討しています。



質問する  
村上 弘仁 議員

### 質問 サトウキビ病害虫 防除対策について

質問 メイチユウ、ワタアブラムシの分布状況について伺う。

### 答弁 農業振興課長

現在のところ把握できていないが、メイチユウについては、八地区に十七個のトラップを設置、毎月十日おきに捕獲調査を行い、捕獲が多い時期には情報無



メイチユウ被害

線で防除を呼びかけています。

質問 メイチユウ、ワタアブラムシの九月〜十月の発生時の防除対策について伺う。

### 答弁 農業振興課長

スミチオンや新農薬のサムコル、プレバソン粒剤を国や町事業等で薬剤購入費を助成しています。今後は、防除機の導入と併せて受託作業等で一斉防除の推進が必要であると考えています。

### 質問 園芸振興について

質問 平張りは今後も推進していくのか。

### 答弁 町長

園芸作物を栽培する上で、防風対策は必要不可欠です。

平張り施設推進も必要ですが、防風樹の植栽や防風垣の設置、緑肥を活用した防風対策を併せて推進して参ります。

### 質問 現在、推進しているトウガラシ、プロッコリー、キャベツ、カボチャをどこまで支援ができるのか。

現在、推進しているトウガラシ、プロッコリー、キャベツ、カボチャをどこまで支援ができるのか。

### 答弁 町長

営農支援センターでの育苗ならびに販売を当面は継続支援し、植え付けに関しては、機械の貸出(有償)などを検討して支援を行って参ります。



質問する  
荒 哲治 議員

### 質問 スポーツ振興について

質問 町内の小中高生や社会人がいるんな大会で活躍し、野球場の建設を待ち望んでいるが、旧二中跡地に野球場の建設はできないか。

### 答弁 町長

野球人口の多い本町であり、若者が望む体育施設の整備を行うことで、町の活性化やスポーツ誘致の観点からも必要であると思いますが、総合的に判断して、旧第二中学校跡地が野球場として適切なのかを引き続き検討していく必要があると思われれます。

### 質問 きかい100スポーツクラブの地位確保について

きかい100スポーツクラブのクラブマネージャーの地位確保について

### 答弁 生涯学習課長

クラブマネージャーが慌ただしい日々を送っていることは承知しています。運営については、本来、会員からの会費による運営に努めていくことが適切であると思われれますが、町民の健康増進等の観点からも、きかい100スポーツクラブとの連携は必要不可欠であると考えます。生涯学習課としてもクラブ存続



きかい100スポーツクラブ



のため、サポートは必要であり、協議を進めて参ります。



質問する  
峰山 恵喜光 議員

### 質問 ふるさと納税について

質問 本町のふるさと納税の過去、五年分の実績について

回答 総務課長

平成二十七年度は二百十名の方から八百九万四千円の寄附がありました。平成二十三年度から平成二十七年までの五年間の累計では、述べ二百八十四名、一千七百五十九千円です。

平成二十七年に寄附件数、金額ともに大幅に増加しましたが、その要因としては、返礼品の開始やインターネットサイト「ふるさとチョイス」への登録、クレジットカード

決済の導入等が考えられます。

質問 本町のふるさと納税の目標額はいくらか

回答 総務課長

今年度は、これまでの各郷友会等での広報活動や「ふるさとチョイス」への加入などにより、ふるさと納税への周知が広まったことや返礼品の選択肢を増やしたことにより、これまで以上の寄附件数、金額を期待しているところです。今年度の目標としては、昨年度比約二・五倍の一千二百万円を目標としています。

質問 ふるさと納税を担当する職員の増員は考えられないか

回答 総務課長

これまで、総務課財政係の職員が業務の中の一つとして担当していたが、昨年度十一月末より、臨時職員を一名雇用し業務を行っているところです。今年度については、ふ

るさと納税が大幅に増加する見込みであるが、その動向も見ながらふるさと納税システムの導入や職員の増を検討して参ります。

質問 これまでの実績の評価に基づいて今後の基本的な方針はどうなっているか

回答 総務課長

今後ともこれまで同様に広報や返礼品等を充実させ寄附者（金額）を増やしていくこと

に力を入れていきますが、寄附金をどのような施策に生かしていくかも考えていきたいと思えます。現在は、小中学校入学祝い金事業に活用し、平成二十七年度は二百二十六万円（小学校六十名、中学校五十三名）を支出させていただきました。今後も寄附者の方々の意向も大切にしながら、有効かつふるさと納税ならではの施策に生かせるよう今後もふるさと納税制度に取り組んで参ります。



よろこびとグッズ(返礼品)

## 次の議会は、8月下旬を予定しています。

午前 9:30 皆様の傍聴をお待ちしています。

次回  
定例会

●お問い合わせ先 65-1115

## 陳情の審査結果

提出者	件名	所管委員会	審査結果
喜界町中里 茶屋道 裕三	教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元、複式学級解消をはかるための2017年度政府予算に係る意見書採択の要請	総務文教	採 択

## 意見書の審査結果

提出者	件名	審査結果
生 駒 弘	次期介護保険制度改正における福祉用具、住宅改修の見直しに関する意見書	採 択
生 駒 弘	食品ロス削減の取り組みを進める意見書	採 択
生 駒 弘	待機児童解消に向けて緊急的な対応を求める意見書	採 択

公益に関わる意見書案が議員から提出され審議の結果、全会一致で可決され、関係行政庁に提出し、その実現を要請しました。

## 人 事

### ○教育委員会委員の選任



教育委員会委員  
豊原 周子 氏  
(大朝戸)

任期は  
平成28年7月1日から  
平成32年6月30日

### 議会のうごき(6月～8月)

- 6月2日 奄美群島航路対策協議会外三件(奄美市)議長
- 6月3日 喜界町議会運営委員会
- 6月6日 第二回喜界町議会定例会(一般質問等)
- 6月7日 各常任委員会(補正予算等審査)
- 6月13日 第二回喜界町議会定例会(閉会)
- 6月17日 喜界町長寿会総会・漁協組合総会(議長)
- 6月25日 しま興し祭り
- 7月11日 平成二十八年大島地区消防組合議会臨時会(奄美市)外内議員
- 7月15日 平成二十九年公立高等学校生徒募集定員策定等に係る地区説明会(奄美市)議長
- 7月22日 平成二十八年防衛省全国情報施設協議会総会(東京)議長
- 7月28日 東京農大連携協定(東京)議長
- 8月4日 市町村政研修会(鹿児島市)全議員
- 8月10日 奄美・やんばる広域圏交流推進協議会総会(沖縄県名護市)議長

## 奄美群島市町村議会議員大会が本町で開催される

第五十九回奄美群島市町村議会議員大会が五月十九日、各市町村の議会議員及び事務局職員、市町村長、県議会議員が参加し、本町体育館で開催された。議長会や各地区から提出された七議題の提案事項説明が行われ、全会一致で採択した。

**喜界町提案事項**  
喜界高校に特別支援学校高等部の分教室または特別支援学級の設置を求めること

近年、県内の離島でも高等学校における特別支援教育の環境整備の充実を求める声が高まり、既に郡内では高校校舎を活用した特別支援室が設置され、大島養護学校の訪問教育が実施されています。屋久島においても分教室の設置へ向けた取り組みが進められていると聞いています。

そうした流れの中、中高一貫教育を掲げながらも喜界町だけが取り残されている状況に対して、支援を必要とする子どもたちや保護者の方々の声に寄り添えなかった我々にも責任の一端を感じているところで

す。  
喜界町からも大島養護学校高等部に通っている生徒はいます。大島養護学校に通うことで十分な教育は受けられますが、親元

を離れなければならないことは、経済的にも精神的にも大きな負担となります。

また家庭環境によって大島養護学校に通うことのできない生徒に対しても選択肢を提供する必要があります。

特別支援教育施行から十年を迎え、国も高等学校における特別支援教育について制度化を含め、強く推進していく方針を打ち出しています。

現在、郡内で実施されている訪問教育も決して充分とは言えず更に充実した特別支援教育への取り組みが求められています。

療育における最終的なゴールは自立にあります。そのためには、学業も社会性を身につけることも大切なことです。出来るだけ自分の力で社会の中で生きていく力を身につけようとすると子どもたちの教育環境にハンデイがあつてはなりません。

保護者や町民からあがつている大きな声も無視するわけにはいきません。

喜界町においても、障害のある子ども達の自立に向けて地域全体で支えていける環境整備に取り組んでまいります。

つきましては、障害のある生徒が地元で学ぶことが出来るよう、喜界高校に特別支援学校の分教室または特別支援学級を早急に設置されるよう強く要望いたします。



提案理由を述べる外内千里議員

「郷土芸能継承」

志戸桶十五夜会会長  
伊牟田 正子（志戸桶）

私の所属する「志戸桶十五夜会」は平成四年に結成されました。郷土芸能の消滅の危機感を感じ、集落の三十数名の方に呼びかけたところ、多くの方の賛同をいただき結成することができました。発足当時は先輩方から八月踊りや島唄の指導を受ける活動でしたが、今は製糖期を除いて、毎月旧暦の十五日に地区公民館に集い、唄と踊りの練習をし、会員相互の和を広め、又人と人の触れ合いの場として大切にしていきます。

八月踊りは集落によって唄の種類、手振り、足くみが違います。唄者の高齢化により、最近生の声で踊る集落が少なくなっている様に感じます。お互いに自分達の郷土の芸能に今一度力を入れて、継承し守っていききたいものです。

私たちはこれまで平成九年の「鹿児島アイランドフェスタ」の舞台参加を皮切りに、瀬戸内町「油井の豊年祭」、「旧菱刈町制五十周年記念産業祭」、「徳之島「目手久集落との交流」、熊本城築城四百年「ハイヤフェスタ」、大宰府市筑紫女子学園「公開シンポジウム」、など多くのイベントに参加交流してまいりました。この様な活動ができたのも先人たちが残してくれた島唄、八月踊りのおかげであると感謝しております。

郷土の文化の方言、島唄、八月踊りの継承は今後の私たちの島にとって大きな課題です。各集落の有志の方々共に、議会や町の後押しをいただき、郷土芸能の継承活動が活発になる様に願うものです。

編集後記

広報委員会の委員となり二年目になりました。初めて議員に当選し広報委員の指名を受けた時は無我夢中で、当時の編集の心がけを思い出すことはできませんが、この二年間は、いかに読者に親しみのある紙面にできるか、読者の関心を引き付けることができるかに努めました。

ことに一般質問については、それぞれの議員の質問の要旨をかみ砕き、短くかつ質問者の思いを伝え、執行部の答弁を正確にお伝えすることを基本に編集を心がけてきました。また議員が町民の皆さんの代表として、色々な課題、問題点を指摘し町当局に改善を求めなど取り組んでいる質問を編集し、伝える難しさを改めて認識いたしました。

他にも委員会報告、条例改正、陳情等の審議などについては、議会事務局発行の「議会議事録」(議会での発言をすべてテープ収録し文字起こした冊子)とは、一味違う読者の興味を引く様に心がけてきました。今後さらに「議会広報」が町民の皆さんのご指摘、ご指導により、親しみやすく、関心を高める質の向上した紙面になるよう努めたいものです。

文責 外内 千里  
議会広報委員会  
委員長 生駒 弘  
副委員長 峰山 恵喜光  
委員 外内 千里  
委員 榮 哲治  
委員 谷本 泰男  
委員 河上 弘仁